

## 令和7年度 「社会福祉基礎」学習指導計画

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめり	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法	
					I	II	III			
1	4	社会福祉の理念と意義	生活と福祉	・日本の人口の推移とそれに伴う社会福祉の課題について理解する。 ・産業構造の変化や地域社会の変化について理解する。 ・家族の多様化と働き方の変化について理解する。 ・疾病構造の変化が医療に及ぼす影響と健康増進の取り組みを知る。 ・人の一生に社会福祉が様々な形で関わっていることを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	7	・定期検査 ・レポート、 ノート ・課題・作品 ・授業に対する 主体的、協働な 取り組み	
	5		社会福祉の理念	・福祉の基礎となる理念について理解する。 ・日本国憲法の人権規定と社会福祉との関わりを学ぶ。 ・地域社会と社会福祉との関わりについて理解する。	<input type="radio"/>			7		
	6		人間の尊厳と 新たな福祉社会の創造	・基本的価値としての人間の尊厳について理解する。 ・自立生活支援の考え方と今後の展望について理解する。 ・新たな福祉社会と求められる担い手や活動について理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	12		
	7				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
2	8	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	高齢者福祉と介護保険制度	・高齢者の在宅サービスの概要を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3	・定期検査 ・レポート、 ノート ・授業に対する 主体的、協働な 取り組み	
	9	社会福祉の歴史と 次世代の展望	諸外国における社会福祉	・社会福祉の歴史の流れを理解する。 ・イギリスの福祉国家の誕生の流れを理解する。 ・イギリスの福祉国家の危機と改革の歴史を理解する。 ・アメリカの社会福祉の歴史と特徴を理解する。 ・北欧の社会福祉の歴史と理念について理解する。 ・ドイツ・フランスの社会保障の歴史を理解する。 ・アジア諸国(日本を除く)の社会福祉の歴史と課題について理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	21		
	10				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	11				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	12				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
3	1	日本における社会福祉		・慈善事業や社会事業が生まれた社会背景について理解する。 ・第二次世界大戦が後の社会保障の基礎を作った経緯を理解する。 ・戦後の社会福祉制度の構築の過程と理念について理解する。 ・国民年金と皆保険の成立、福祉六法体制確立の背景を理解する。 ・在宅福祉の充実をめざす福祉改革の背景を理解する。 ・子どもおよび家庭への支援施策の拡充の歩みを理解する。 ・障害者施策の拡充の歩みを理解する。 ・近年の福祉の大きな変化と今後の福祉社会のあり方を考える。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	20	・定期検査 ・レポート、 ノート ・プレゼン ・授業に対する 主体的、協働な 取り組み	
	2				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	3				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			

### 【親占別評価】

## 令和7年度 「介護福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科			学年	1	履修	必修
教科	福祉		科目名	介護福祉基礎		単位数	2
教科書名（発行所）	介護福祉基礎・こころとからだの理解（実教出版）			副教材（発行所）			
① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得する。 ② 介護の現代的意義や役割について考え、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解する。 ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育む。							

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学 期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	オリエンテーション 第1編 介護の意義と役割	1. 介護の意義、役割、尊厳を支える介護 2. 利用者主体の介護サービス 3. 介護を必要とする高齢者の人権と尊厳 4. 介護を必要とする障害者の人権と尊厳	・基本的人権の尊重の実現を目指した介護の意義や役割を理解し、生活の質を高める介護について考察する。 ・利用者主体の介護の実現のため、自己決定の重要性を理解し、自己決定に向けた支援について考察する。	○	○		14	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題
	5	第2章 自立に向けた支援	1. 自立を支援する専門職 2. 個別性を尊重した自立のための支援	・介護分野における自立のあり方について理解し、その本質や介護従事者としての関わり方を考察する。 ・基本的人権の尊重を意識しながら、ICFモデルへの改訂が行われた背景を理解し、利用者のQOLを高める方法や虐待防止策について考察する。		○			・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	6	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	1. 観察 2. コミュニケーション 3. 介護技術の基本 4. 居住環境の整備 5. 移動の支援(1) 6. 移動の支援(2)	・介護が必要な人たちの自立した生活を目指して観察することの意義を理解し、場面に応じた観察するべきポイントを学ぶ。 ・コミュニケーションの種類や方法、目的を理解し、信頼関係の構築に必要な基本的態度や他の職種との連携を考察する。 ・介護者や利用者の双方のためにボティメカニクスを生かすことを理解し、より効果的に行うための方法について学ぶ。 ・利用者の自立した生活のために安全な環境づくりの方法を学ぶ。 ・移動することについての意義や目的を理解し、日常生活との関連や具体的な支援の方法を学ぶ。	○		○	14	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	7	第4章 介護を必要とする人の生活を支える支援	7. 食事の支援 9. 身じたくの支援	・食事の意義や目的を理解し、食べることの楽しみをふまえつつ、安全な食事支援を考察する。 ・身じたくを整えることについての意義や目的を理解し、状態に応じた安全な着脱の支援を学ぶ。	○	○	○	12	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査
2	8	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	7. 食事の支援 9. 身じたくの支援	・食事の意義や目的を理解し、食べることの楽しみをふまえつつ、安全な食事支援を考察する。 ・身じたくを整えることについての意義や目的を理解し、状態に応じた安全な着脱の支援を学ぶ。	○	○	○	12	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査
	9	第4章 介護を必要とする人の生活を支える支援	10. 介護サービスの利用方法 11. 介護サービスの場の特性（在宅） 12. 居宅介護サービス 13. 地域密着型サービス	・介護保険制度の目的を理解し、ケアマネジメント業務や利用できるサービスを学ぶ。 ・介護保険制度における居宅サービスの役割や特徴を理解した上で、在宅介護をとりまく課題を学ぶ。 ・地域密着型サービスの役割や種類を理解し、地域との交流や介護予防の観点をふまえたサービスのあり方を学ぶ。	○	○		6	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査
	10	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第5章 介護福祉サービスの概要	1. 介護サービスの利用方法 2. 介護サービスの場の特性（在宅） 3. 居宅介護サービス 4. 地域密着型サービス	・介護職員初任者研修における学びを復習し、必要な知識・技術を確実に身につける。	○	○		14	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
3	11	(発展) 介護職員初任者研修のまとめ	・介護職員初任者研修修了に向けた12学期の総復習	・介護職員初任者研修における学びを復習し、必要な知識・技術を確実に身につける。	○	○	○	14	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	12								
	1	第2章 高齢者の生活と支援（こころとからだの理解）	3. 高齢者の生活支援	・認知症の原因となる疾患と心身の変化や心理状態を理解し、認知症の人を中心とした診療支援を行うための基礎知識を学ぶ。 ・認知症の具体的な診断方法について理解し、生活に即した診療を行っていくための医療連携について考察する。 ・認知症の医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患と生活支援を行うための根拠を学ぶ。 ・認知症の治療の目的と薬物療法について学ぶ。	○		○	10	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
3	2	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第4章 介護を必要とする人の生活を支える支援	8. 排せつの支援 10. 入浴の支援 11. 睡眠・休養の支援	・排せつの意義や目的を理解し、利用者の状態に応じた安全な排せつ行為の支援を考察する。 ・清潔を保つことについての意義や目的を理解し、状態に応じた安全な入浴の支援を学ぶ。					
	3								

### 【観点別評価】

評価項目・対象	考查	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
I 知識・技能	60	20				20						100	70
II 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	20
III 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	①介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けています。 ②介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けています。 ③より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けています。												

## 令和7年度 「生活支援技術」 學習指導計画

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

70

### 【観点別評価】

令和7年度 「 介護総合演習 」 学習指導計画

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学 期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	施設実習に向けた学習	1施設実習 オリエンテーション① (高齢者施設を知る)	・施設実習の意義と目的を理解するとともに、実習の内容や実習期間を把握する。 ・実習施設（高齢者施設）の概要や、施設における介護職員の主な業務内容について理解する。	<input type="radio"/>			3	・レポート ・実習に関する課題 ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	5		2施設実習 オリエンテーション② (実習記録の記入方法)	・客観的な記録により利用者理解につながることを理解するとともに、適切な記録の書き方を学ぶ。 ・個人情報の保護の重要性について理解する。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3	
	6		3実習への課題設定	・実習の目標を設定するとともに、実習評価について理解することより、主体的に介護実習に取り組む姿勢を身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4	
	7		4施設実習 事前準備① (コミュニケーション、接遇マナー)	・介護従事者として人間形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解する。 ・利用者の尊厳を守り、信頼関係を気づくための接遇マナーを身に着ける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2	
2	8	施設実習に向けた学習	5施設実習 事前準備② (認知症に関する学習、レクリエーション)	・認知症および認知症の人を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身につける。 ・利用者支援に必要な個別レクリエーションや集団レクリエーションは持つ意味を理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	3	・レポート ・実習に関する課題（実習記録） ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	9		6レクリエーション計画の作成	・利用者の心身の状態に合わせたレクリエーションの計画手法を学ぶ。	<input type="radio"/>			3	
	10		7施設実習	・介護の場における基本的な介護技術を実践し、習得する。 ・実践を通じ、自立生活支援のために介護が提供されていることを理解する。 ・実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3	
	11		8実習報告会	・自らの体験を振り返り、自己の実践上の課題等を再認識することで、今後の学習に生かしていく主体性を身につける。 ・実習での学びを仲間と共有することで、福祉の多様性について考察する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3	
	12								
3	1	施設実習のまとめ	9福祉に関わる専門職（調査）	・福祉に関わる専門職の資格とその専門性、キャリア形成のあり方について調べる。	<input type="radio"/>			3	・レポート ・発表プレゼン ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	2		10福祉に関わる専門職（発表）	・福祉に関わる専門職について調べた内容を仲間と共有することで、より良い支援のために必要な多職種連携について考察する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3	
	3		11学習のまとめ	・一年間の学習成果をレポートにまとめる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	

35

### 【観点別評価】

## 令和7年度 「社会福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科				学年	2	履修	必修
教科	福祉	科目名	社会福祉基礎		単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	社会福祉基礎（実教出版）			副教材（発行所）				
目標	① 社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を実践する態度を身に着ける。 ② 社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。 ③ 対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。							

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学 期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	社会保障制度の意義と役割	・社会保障制度の基本的な考え方、各制度の内容について理解する。 ・社会保障制度を推進する機関とその役割について理解する。	○	○		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考查</li> <li>レポート、ノート</li> <li>課題・作品</li> <li>授業に対する主体的、協働な取り組み</li> </ul>
	5			・戦後の児童福祉法から、現代社会の子育て支援までの推移を知る。 ・児童相談所と市町村の役割と機能、地域社会の関わりを理解する。 ・保育所の歴史と現代の保育所の課題について理解する。 ・不登校や非行の傾向とその対応策について理解する。 ・子どもの貧困、社会的擁護や児童虐待について理解する。 ・障害のある子どものための法律と福祉サービスについて理解する。 ・子どもの権利条約の内容と社会への影響について理解する。	○	○	○	11	
	6		子ども家庭福祉	・高齢者福祉と介護保険制度	○	○	○	5	
	7			・日本の高齢化の実態と課題について理解する。 ・介護保険制度の目的と内容について理解する。 ・介護保険制度の見直しの内容とその背景について理解する。 ・高齢者の在宅サービス（福祉系・医療系）の概要を理解する。 ・介護保険制度における地域密着サービスや施設サービスの概要を理解する。 ・老人福祉施設と高齢者向け住宅について理解する。 ・認知症高齢者の特徴とその支援策について理解する。	○	○		3	
2	8		高齢者福祉と介護保険制度	・生活保護制度の目的と役割、基本原理、基本原則を理解する。 ・生活保護制度の保護の種類及び基準を理解する。 ・生活保護制度の実施運営体制を理解する。 ・新しい法律である生活困窮者自立支援法や生活福祉資金貸付制度などの支援施策を理解する。	○	○	○	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考查</li> <li>レポート、ノート</li> <li>課題・作品</li> <li>授業に対する主体的、協働な取り組み</li> </ul>
	9			・国民の生活を支える社会保険制度	○	○	○	4	
	10		生活支援のための公的扶助	・役割や特徴、そのしくみを理解する。 ・我が国の医療保険制度の概要を理解する。 ・我が国の高齢者医療制度や医療提供体制のしくみについて理解する。 ・公的年金制度の概要、財政、管理組織について理解する。 ・公的年金の種類、年金額の改定のしくみ、企業年金について理解する。 ・雇用保険、失業等への対応、育児・介護休業制度、労働者災害補償保険のしくみについて理解する。	○	○	○	3	
	11			・障害者基本法における障害者の定義を理解する。 ・障害者の生活に関して、社会モデルを用いたICFについて理解する。	○	○		4	
3	1	生活を支える社会福祉 ・社会保障制度	障害者福祉	①社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 ③健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	○	○		100	70
	2			①社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 ③健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	○	○		100	20
	3			①社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 ③健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	○	○		100	10

### 【観点別評価】

評価項目・対象	考查	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
I 知識・技能	60	20				20						100	70
II 思考・判断・表現	20				30	20	30					100	20
III 主題的に学習に取り組む態度	20				20			30	30			100	10
評価の重点	①社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 ③健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

## 令和7年度 「介護福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科			学年	2	履修	必修
教科	福祉			科目名	介護福祉基礎	単位数	2
教科書名（発行所）	介護福祉基礎（実教出版）			副教材（発行所）			

- 目標
- ① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得する。
  - ② 介護の現代的意義や役割について考え、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解する。
  - ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育む。

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学 期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法	
					I	II	III			
1	4	オリエンテーション 第2編 介護福祉の扱い手 第1章 介護従事者をとりまく状況	1. 介護の歴史と現状 2. 介護福祉士の養成 3. 介護人材の確保と定着 4. 介護従事者のキャリアアップ 5. 介護従事者の社会的地位の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦前・戦後の家族のあり方や少子高齢社会への変化など、介護保険法制度が始まった社会の背景について学ぶ。</li> <li>・介護福祉士を中心とした介護の専門職に関する法律について、その定義や資格取得方法を学ぶ。</li> <li>・介護にあたる人材の確保のため、労働環境の整備や専門性の整理が急務であることを学び、EPAに基づく多様な人材との協働を考察する。</li> <li>・介護従事者がキャリアアップをしていくための具体的な方策について理解し、自己研鑽の必要性について考察する。</li> </ul>	○	○		14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習レポート、ノート</li> <li>・ワークシート</li> <li>・編末問題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・授業に対する主体的、協働な取り組み</li> </ul>	
	5									
	6									
	7		第2章 介護従事者の役割と介護福祉士 第3章 介護従事者の倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の役割、介護福祉士の専門性</li> <li>3. 在宅介護従事者の役割</li> <li>4. 施設介護従事者の役割</li> <li>1. 専門職の倫理</li> <li>2. 専門職としての基本姿勢</li> <li>3. プライバシーの保護</li> </ul>	○	○	○	14		
	8									
2	9	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第1章 介護を必要とする人と生活環境	1. 介護を必要とする人の生活環境 2. 介護を必要とする人の背景と生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立した暮らし方のためにバリアフリーやユニバーサルデザインを学ぶ。</li> <li>・一人ひとりの生活歴があることを意識し、その上で本人にとって暮らしやすい環境づくりに必要な支援を考察する。</li> </ul>	○	○		6		
	10									
	11									
	12		第5章 介護福祉サービスの概要 第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第5章 介護福祉サービスの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者とは何か</li> <li>2. 脳梗塞の生活と支援</li> </ul>	○	○	○	7		
	1									
3	2	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第3章 障害者の生活と支援	3. 脳梗塞の生活と支援 4. 内部障害者の生活と支援 5. 知的障害者の生活と支援 6. 発達障害者の生活と支援 7. 精神障害者の生活と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者、聴覚・言語障害者の生活と支援</li> <li>・内部障害者の生活上の困難と支援について理解する。</li> <li>・知的障害者の生活上の困難と支援について理解する。</li> <li>・発達障害者の生活上の困難と支援について理解する。</li> <li>・精神障害者の生活上の困難と支援について理解する。</li> </ul>	○	○		10		
	3									

### 【観点別評価】

評価項目・対象	考查	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
I 知識・技能	60	20				20						100	70
II 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	20
III 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	①介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けています。 ②介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けています。 ③より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けています。												

## 令和7年度 「コミュニケーション技術」学習指導計画

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめり	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法	
					I	II	III			
1	4	1オリエンテーション 2コミュニケーションの 基本技術	人間の理解と人間関係	・人間関係におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、他者理解や自己理解を深める。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	7	・レポート ・課題・作品 ・授業に対する 主体的、協働な 取り組み	
	5		コミュニケーションとは	・コミュニケーションの特性と効果的なコミュニケーションの技法について理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	7		
	6		言語的・非言語的コミュニケーション	・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴を学び、対人援助におけるコミュニケーションについて考察する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	7		
	7		施設実習（保育） 実習まとめ	・子どもの発達について学び、年齢に合わせたコミュニケーションのとり方を実践を通じ習得する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5		
2	8	3チームによる連携	情報の共有化	・情報収集（アセスメント）の意義と目的を学び、正しい情報収集の方法について考察する。 ・情報の共有化の意義と目的を学び、正しい情報共有の方法について考察する。 ・介護現場でのICT機器の活用について考察する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	10	・レポート ・課題・作品 ・授業に対する 主体的、協働な 取り組み	
	9				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	10	4サービス利用者との コミュニケーション①	認知症の人とのコミュニケーション	・認知症ケアの視点と認知症の症状に伴う心理特徴をふまえ、認知症の人との適切なコミュニケーションの方法について考察する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	7	・レポート ・授業に対する 主体的、協働な 取り組み	
	11		施設実習（高齢） 実習まとめ	・実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。 ・コミュニケーション実践を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指すことができる。 ・円滑な連携、質の高いチームケア実践のために必要なコミュニケーションのあり方について理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	13		
	12				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
3	1	5サービス利用者との コミュニケーション②	まとめ	・さまざまな対象者とのコミュニケーション事例（児童・高齢・障害）を通して対応方法を考え、よりよい実践について考察する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	14	・レポート ・プレゼン ・授業に対する 主体的、協働な 取り組み	
	2				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	3				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			

70

### 【觀點別評価】

## 令和7年度 「生活支援技術」 學習指導計画

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

### 【觀點別評價】

## 令和7年度 「介護総合演習」学習指導計画

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

35

### 【観点別評価】

## 令和7年度 「こころとからだの理解」学習指導計画

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

35

### 【觀點別評価】

## 令和7年度 「福祉情報」 學習指導計画

学科	生活福祉科		学年	2	履修	必修
教科	福祉		科目名	福祉情報	単位数	2
教科書名（発行所）	副教材（発行所）		福祉情報活用（実教出版） 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級			
目標	① 情報及び福祉分野における情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を習得する。 ② 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。					

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめり	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法	
					I	II	III			
1	4	オリエンテーション 第6章 情報の処理・分析・発信	1 日本語ワードプロセッサの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすい文章、文章構成の工夫、敬語表現の必要性を理解する。</li> <li>ビジネス文書の種類と基本的な構成を理解する。</li> <li>ビジネス文書検定3級の知識を理解し、技術を身に付ける。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題</li> <li>プレゼン</li> <li>授業に取り組む姿勢、意欲</li> <li>定期考査</li> <li>検定学習に取り組む姿勢、意欲</li> </ul>	
	5									
	6									
	7		1 日本語ワードプロセッサの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>文書作成ソフトウェアの基本操作と編集機能を理解し、身に付ける。</li> <li>文書作成ソフトウェアへの画像挿入等の方法を理解し、自己紹介カード（実習施設へ）作成を行う。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	8		
	8									
	9		2 表計算ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を分析することの重要性を理解する。</li> <li>表とグラフの基礎を理解する。</li> <li>表計算ソフトウェアの基礎を理解し、グラフを作成する。</li> <li>関数を用いて情報を分析する。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	21		
2	10									
	11									
3	12	第2章 情報モラルとセキュリティ	1.ネットワーク社会の危険性 2.情報モラルとマナー 3.セキュリティ管理 4.情報機器の仕組みとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人のプライバシーの侵害、著作権などの知的財産の侵害、収集した情報の管理、情報の発信者としての責任など、情報を扱う上で必要な情報モラルを学ぶ。また、情報機器の基本的な機能を充実させる主な周辺機器の役割、基本的なアルゴリズムやプログラムの活用について理解する。</li> </ul>	<input type="radio"/>			6		
3	1	第6章 情報の処理・分析・発信	3 アンケート作成ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート機能について理解する。</li> <li>テーマに沿ったアンケートを作成し、集計をする。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	14		
	2									
	3		4 プrezentationソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションについて理解する。</li> <li>プレゼンテーションの準備を理解する。</li> <li>プレゼンテーションソフトウェアを活用する。</li> <li>効果的なスライドを設定する。</li> <li>スライドの実行とシナリオを作成する。</li> <li>作成したスライドで発表を行う。</li> </ul>						

70

### 【観点別評価】

## 令和7年度 「社会福祉基礎」 學習指導計画

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

【親占別証価】

## 令和7年度 「介護福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科			学年	3	履修	必修
教科	福祉	科目名	介護福祉基礎	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	介護福祉基礎（実教出版）・コミュニケーション技術（実教出版）			副教材（発行所）			

- 目標
- ① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得する。
  - ② 介護の現代的意義や役割について考え、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解する。
  - ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育む。

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学 期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法	
					I	II	III			
1	4	(コミュニケーション技術) 第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	第2章 サービス利用者に応じた コミュニケーション	2. 障害とコミュニケーション 3. 視覚障害のある人とのコミュニケーション 4. 聴覚障害のある人とのコミュニケーション 5. 言語障害のある人とのコミュニケーション 6. 知的障害のある人とのコミュニケーション 7. 発達障害のある人とのコミュニケーション 8. 精神障害のある人とのコミュニケーション	・障害に対する理解や障害のとらえ方をひまえ、障害に応じたコミュニケーションの必要性について考察する。 ・視覚障害のある人との心理を理解し、適切なコミュニケーションの方法について考察する。 ・聴覚障害のある人との個々の状況に応じた効果的なコミュニケーションの方法について考察する。 ・言語障害のある人との個々の状況に応じた適切なコミュニケーションの方法について考察する。 ・知的障害のある人に応じる意思決定支援や具体的なコミュニケーションの方法について学び、知的障害のある人の家族への支援について考察する。 ・発達障害の特性を理解し、発達障害ある人との具体的なコミュニケーションの方法について学び、発達障害のある人の家族への支援について考察する。	○	○	○	28	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	5			9. 精神障害のある人とのコミュニケーション	・言語障害のある人との症状に合わせたコミュニケーションの方法について考察する。					
	6			10. 精神障害のある人とのコミュニケーション	・精神障害のある人との症状に合わせたコミュニケーションの方法について考察する。					
	7			11. 精神障害のある人とのコミュニケーション	・精神障害のある人との症状に合わせたコミュニケーションの方法について考察する。					
2	8	第4編 介護における安全確保と危機管理	第1章 介護における安全と事故対策	1. 介護におけるリスクマネジメント 2. 事故予防のための対策 3. 介護現場で多い事故 4. 身体拘束の禁止 5. 介護現場における防災対策	・安全で安心な暮らしを守るため、リスクが生じやすい場面やその対応やリスクマネジメントについて学ぶ。 ・高齢者の身体的・心理的特徴を踏まえて、生じやすい事故について理解し、事例を通して改善策や防止策を考察する。 ・安全で安心な暮らしを守るため、日ごろから準備しておくことを理解し、災害時に福祉施設が担う役割を考察する。	○	○	○	12	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査
	9			12. 介護従事者の健康管理	・よりよい介護を提供するため、介護従事者の身体面の健康管理が必要なことを理解し、腰痛の予防策や機器の利用方法を学ぶ。					
	10	第2章 介護従事者の健康管理	13. 介護従事者の健康管理	1. 健康管理の重要性 2. 心理面の健康管理 3. 身体面の健康管理 4. 労働安全衛生に関する知識	・介護従事者の健康管理が介護の質にかかわることを理解し、健康管理の重要性を学ぶ。 ・よりよい介護を提供するため、介護従事者の身体面の健康管理が必要なことを理解し、腰痛の予防策や機器の利用方法を学ぶ。					
3	11	第3章 感染対策	第4編 介護における安全確保と危機管理	14. 感染症の理解 15. 感染症の予防策 16. 介護現場で会うことが多い感染症 (1)疥癬 (2)インフルエンザ (3)ノロウイルス食中毒 (4)腸管出血性大腸菌感染症(O157) (5)その他の感染症	・感染症のしくみを理解し、法律にもとづいた対策を学ぶ。 ・感染症の基本的な予防策を理解し、介護施設における感染対策の必要性について学ぶ。 ・疥癬、インフルエンザ、ノロウイルス食中毒、腸管出血性大腸菌感染症などの代表的な感染症の原因、感染経路、症状について理解し、感染対策について考察する。	○	○	○	12	・学習レポート、ノート ・ワークシート ・編末問題 ・小テスト ・定期考査 ・授業に対する主体的、協働な取り組み
	12			13. 感染対策	・利用者の尊厳を守り、自分らしい生活を実現するために福祉用具を活用することを理解し、どのような影響があるか考察する。					

### 【観点別評価】

評価項目・対象	考查	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
I 知識・技能	60	20				20						100	70
II 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	20
III 主体的に学習に取り組む態度					20		30	20	30			100	10
評価の重点	①介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けています。 ②介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けています。 ③より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けています。												

## 令和7年度 「コミュニケーション技術」学習指導計画

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学 期	月	内容のまとめり	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	サービス利用者とのコミュニケーション①	障害とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的障害のある人に対する意思決定支援や具体的なコミュニケーションの方法について学び、知的障害のある人の家族への支援について考察する。</li> <li>知的障害のある人に対する合理的配慮やコミュニケーション方法を理解する。コミュニケーションをとるために、ICT機器などのツールがどのように活用されているかを理解する。</li> <li>実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。</li> <li>発達障害の特性を理解し、発達障害ある人との具体的なコミュニケーションの方法について学び、発達障害のある人の家族への支援について考察する。</li> </ul>	○	○		14	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート</li> <li>課題</li> <li>授業に対する主体的、協働な取り組み</li> </ul>
	5								
	6		施設実習（障害） 実習準備・実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。</li> <li>円滑な連携、質の高いチームケア実践のために必要なコミュニケーションのあり方について理解する。</li> </ul>	○	○	○	12	
	7								
2	8	サービス利用者とのコミュニケーション②	施設実習（障害） 実習まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション実践を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指すことができる。</li> </ul>	○		○	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート</li> <li>課題</li> <li>授業に対する主体的、協働な取り組み</li> </ul>
	9								
	10	サービス利用者とのコミュニケーション③	地域とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな対象者が暮らしている地域の中で、その人にあったコミュニケーションの実践を通して対応方法を考え、よりよい実践について考察する。</li> </ul>					
	11				○	○	○	20	
	12								
3	1	チームによる連携	チームのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護におけるチームのコミュニケーションの意義と留意点について事例を通し、考察する。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート</li> <li>授業に対する主体的、協働な取り組み</li> </ul>
	2				○	○	○	14	
	3								

【親占別証価】

令和6年度 「介護総合演習」学習指導計画

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

35

### 【観点別評価】

## 令和7年度 「こころとからだの理解」学習指導計画

学科	生活福祉科			学年	3	履修	必修
教科	福祉	科目名	こころとからだの理解	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	こころとからだの理解（実教出版）			副教材（発行所）			
目標	① サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行う上で必要なこころとからだの基本的しくみを習得する。 ② 発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 ③ 保健医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を身に付ける。						

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学 期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	第4章 障害と地域生活支援	1. 障害のある人の地域生活上の困難と支援 2. 障害のある人の地域サポート体制 3. 家族への支援	• ピアサポートを含むチームアプローチについて理解し、具体例を通して生活上の困難と支援について考察する。 • 障害者が地域で暮らしていくために障害者の主体性を尊重しながら、地域行政、関係機関や地域自立支援協議会などと連携して、障害者の生活を支援するサポート体制づくりについて学ぶ。 • 家族への心理的支援や障害受容への支援、レスパイトケアなど家族への支援について学ぶ。	○	○		14	• 学習レポート、ノート • ワークシート • 編末問題 • 小テスト • 定期考査 • 授業に対する主体的、協働な取り組み
	5								
	6								
	7								
2	8	第5編 障害の理解 第2章 生活機能障害の理解	1. 身体障害	• 身体障害の種類や特性について理解し、聴覚障害、視覚障害、肢体不自由、内部障害など各種の障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○		3	• 学習レポート、ノート • ワークシート • 編末問題 • 小テスト • 定期考査 • 授業に対する主体的、協働な取り組み
	9		2. 精神障害 3. 知的障害	• 精神障害の種類と原因、関連する症状について学び、生活上の困難について考察する。 • 知的障害の定義と特性を理解し、言語発達の遅れや発達の遅れに関わる生活上の困難について考察する。	○	○		3	
	10		4. 発達障害	• 発達障害の定義と特性を理解し、障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○		3	
	11		5. 高次脳機能障害	• 高次脳機能障害の種類と症状を理解し、障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○	○	3	
	12		6. 難病	• 難病の種類と症状を理解し、難病が日常生活に及ぼす影響について考察する。	○	○	○	3	
	1		第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 第2章 生活場面の変化に関するこころとからだのしくみ	3. 災害時に関するこころとからだのしくみ 4. 終末期に関するこころとからだの関係について理解し、多職種との連携による看取りのケアや家族への支援について学ぶ。	○	○		6	• 学習レポート、ノート • ワークシート • 編末問題 • 小テスト • 定期考査 • 授業に対する主体的、協働な取り組み

### 【観点別評価】

評価項目・対象	考查	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
I 知識・技能	60	20				20						100	70
II 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	20
III 主体的に学習に取り組む態度					20	30	20	30				100	10
評価の重点	①自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的、系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。 ②自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けています。 ③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的取り組む態度を身に付けています。												

令和7年度 「生活支援技術」 學習指導計画

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

## 【粗占別評価】

## 令和7年度 「 福祉実践 」 學習指導計画

学科	生活福祉科			学年	3	履修	選択
教科	福祉		科目名	福祉実践		単位数	2
教科書名（発行所）	コミュニケーション技術（実教出版）			副教材（発行所）			
目標		1 福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、コミュニケーションの基本技術、サービス利用者や家族とのコミュニケーション方法を身に付けるようにする。 2 実践的・体験的な学習活動を通し、コミュニケーションに関する諸課題について発見し、解決する力を養う。 3 福祉実践におけるチームのコミュニケーション構築のために必要な資質・能力を育成する。					

(注) 評価の観点は、I 「知識・技術」 II 「思考・判断・表現」 III 「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

70

### 【観点別評価】